

まち×学生 縁結びプラットフォームの提案

- まちづくりサークルと地域団体の連携強化に向けて -

同志社大学政策学部風間ゼミナール地域プラットフォーム班

○安田 薫 (Kaoru Yasuda) ・大谷 航輝 (Koki Otani) ・若尾 達平 (Tappei Wakao) ・宮本 陽 (Haru Miyamoto) ・齊藤 聖 (Hijiri Saito) ・上田 夏実 (Natsumi Ueda)

(同志社大学政策学部政策学科)

キーワード：学生サークル、地域の繋がり、プラットフォーム

1. 問題意識

京都市はバブル崩壊以降、市民の幅広いニーズに対応するため積極的に市民協働を進める政策に取り組んできた。しかし、少子高齢社会を迎え、かつてのまちづくりの担い手が高齢化してきており、京都市は新たな協働の主体として大学生の存在に着目した。大学生がまちづくりに参画することで、地域の人手不足を解消することができるほか、若者特有の新たな目線で、まちづくりを行うことができる。

しかし、2023 年度に京都市職員平子氏が独自に同志社大学の学生 245 名を対象として実施したアンケート調査によると、「まちづくり活動」への参加経験がある人の割合 33%であった。この調査結果から、私たちは、行政によって既に若者の市民協働を促進させる取り組みが行われているにも関わらず、実際にまちづくりに参加した経験のある大学生は少ないことに、問題意識を抱いた。この問題は学生サークルと地域団体の結びつきを強めることで解消できるのではないかとの仮説のもと研究を行った。

2. 現状分析

2-1. 学生のまちづくりに関する意識調査

私たちは、大学生のまちづくりへの関心を把握するため、まちづくりに関する意識調査を行った。対象者は、同志社大学政策学部の 2024 年度秋学期講義「政策過程論」の受講生 159 名である。調査によると、全体の 65%に当たる学生がまちづくり活動に関心を持っていることが分かった。そのうち、およそ 75%に当たる学生がまちづくり活動に「参加したことがない」と回答した。まちづくりに関心があるにも関わらず、実際に参加した経験がない理由（複数回答可）として、「一人では参加しにくい(44%)」、「参加するための障壁が高い(38%)」、「何から始めたらよいのかが分からない(36%)」という意見が挙げられた。一方で、まちづくり活動に参加した経験のある学生 27 名のうち、18 名がまちづくり

サークルに所属していた。このことから、個人でまちづくりに参加するよりも、学生中心のまちづくりサークルの一員として活動を行う方が、まちづくりに対する学生の心理的ハードルを低くすることができると考えられる。また、学生個人に比べて組織力を持つサークルがまちづくりに参画することで、協働における活動の幅が広がると考えられる。加えて、まちづくりサークルの活動が活発化することで、京都市における地域力が高まり、ユニークな試みが生まれることが期待できる。

2-2. まちづくりサークルが抱える問題

私たちは、まちづくりサークルが現在抱えている問題を調査するため、同志社大学政策学部内の学生団体 Uni-vate の代表 A さん（仮名）にインタビュー調査を行った。学生団体 Uni-vate は「政策を学んで実践する」ことをコンセプトに 2022 年に設立されたまちづくりサークルである。A さんに、Uni-vate と地域団体の連携の経緯を伺ったところ、現在行っているプロジェクトはサークルメンバー個人が持つ縁によって協働が行われていることがわかった。学生の市民協働を行うためのアクセスポイントが複雑化しているため、どれを利用したらよいか判断が難しいという。また、新しいプロジェクトを行いたい場合、連携先を発見するのに時間がかかることも問題にあげている。さらに、行政から紹介された地域団体とサークルの理念に違いがあることや、行政が仲介に入ったことで関係を解消したい旨を言い出しづらい現状があることも判明した。

そこで私たちは、まちづくりサークルが地域団体との連携を有効かつ効率的に行うことができる仕組みを提供することを目的として、地域連携のプラットフォーム「まち×学生 縁結びプラットフォーム」を提案する。

3. 政策提言

「まち×学生 縁結びプラットフォーム」は、まち（地域団体）と学生（まちづくりサークル）を「お見合い」という形で出会いの機会を演出し、両者にとっての良縁を生み出すプラットフォームである。

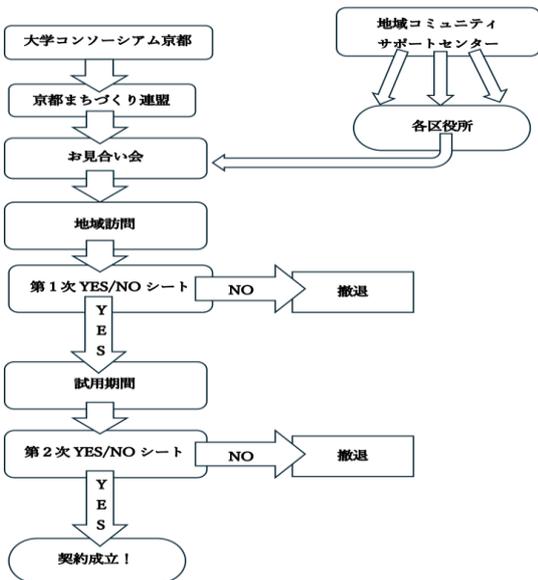


図1. 縁結びプラットフォームの流れ

3-1. 京都市学生まちづくりサークル連盟

現在京都市には、たくさんのまちづくりサークルが活動しているが、情報がひとつに集約される場が存在しない。そこで、「まち×学生 縁結びプラットフォーム」を効率的に運営するための基盤組織として、コンソーシアム京都の地域連携事業部のもとに「京都市学生まちづくりサークル連盟（以下、連盟）」を設置することを提案する。まちづくりサークルが連盟に加入することのメリットは、後述の地域団体との「お見合い会」への参加を通じて、自分たちの意識や能力にあった協働相手を探しやすくなる点である。また、連盟の存在によって、活動に信用が生まれることが挙げられる。

連盟の設置に伴って、登録サークルの活動履歴、メンバー、関心のある事業、サークルの歴史などを記載した「ポートフォリオ」を各サークルに作成・更新してもらう。そして、その情報をHPで管理し、検索・閲覧ができるようにする。地域団体は、これによって最新のまちづくりサークルの情報を得ることができる。また、連盟は定期的に連携先となる地域団体と出会うためのイベント「お見合い会」を開催する。

（3-3 実施の流れを参照）

3-2. 地域団体に関する情報

学生まちづくりサークルと協働する地域団体に関する情報の収集・管理については、地域コミュニティサポートセンターが担当する。当センターは京都市文化市民局自治推進室の統括の

もと各区役所が運営しており、大学コンソーシアム京都と、「学まちコラボ事業」や「輝く学生応援プロジェクト」などの事業連携を通じて既に協働関係を結んでいる。各区役所が、地域団体に「お見合い会」への参加を呼びかけることで、有効かつ効率的な運営が可能となる。地域団体に関する最新の情報を収集するため、地域団体の見学会を開催したり、地域団体の方も「ポートフォリオ」を掲載する機能を追加したりする方策も考えられる。

3-3. 「お見合い会」の実施の流れ

「お見合い会」では、参加サークルによる活動報告会と、各サークルがそれぞれのブースを持ち、地域団体と自由に対話を行う時間が設けられている。

「お見合い会」でお互いが好感を得て、協働の気持ちが高まった場合には、地域訪問を実施する。地域訪問では、まちづくりサークルが地域団体の活動場所に赴き、お見合い会だけでは見ることができなかった活動や地域の雰囲気を感じ取り、協働の検討材料とする。

即座に協働を行うかどうかの結論は出さず、地域訪問の後に、双方に第1次 YES/NO シートを送る。このシートは「NO」を選択すると協働から撤退し、「YES」を選択すると、試用期間が開始する。試用期間は、サークルと地域団体の二者間で相談のうえ設定する。この試用期間のみ、市の協働コーディネーターも関わり、助言を行うことによって、地域団体と学生の対等な関係を作っていく。試用期間が終了した後に、再び第2次 YES/NO シートを交換し、正式に協働関係を結ぶかどうかの判断を行ってもらう。

以上のようなプロセスを経て、まちづくり学生サークルと地域団体のマッチングを行うことで、持続可能な協働関係を作っていく。

4. 期待される効果と展望

本提案は、大学コンソーシアム京都のもとに行われる。大学コンソーシアム京都は、全国初の大学間連携組織で、全国大学コンソーシアム協議会事業の先導的存在である。大学コンソーシアム京都が当プラットフォームを利用して、大学生のまちづくりへの参加の増員に成功した暁には、全国へとその波長が生じると期待される。

5. 参考文献

- (1) 平子愛望 (2023) 修士論文
- (2) 自治会・町内会&NPO おうえんポータルサイト「地域活動助成制」 (https://chiiki-npo.city.kyoto.lg.jp/assoc_cat/support, 2024年10月20日最終アクセス)